

〔研究ノート〕

多文化共生教育の起点となる社会科授業**赤坂 雅裕**

〔Research Note〕

**Social Studies Classes that Lead to Lessons in Living
in International Communities****Masahiro AKASAKA****Abstract**

This research note indicates a practical attempt to develop students' abilities to live in International communities in social studies classrooms.

これからの日本に求められる教育として、以下の5点が挙げられる。

- ①健やかな体と豊かな心を育む教育
- ②情報を取捨選択し構造化する力・創造的な思考力を育成する教育
- ③コミュニケーション能力を育む教育
- ④異質な文化に対する理解を進める教育
- ⑤生涯にわたって学び続ける自己を育成する教育

「日本の子ども」と「子どもたちが生きねばならない時代・世界」の現実を考えれば、確かにこれらの教育はすべて必要であろう。

では、その実践はどうか。

「道徳の特別教科化」や「小学校でも英語教育」等の動きにより、①や③などは強化されているように思う。科学教育・生涯学習の振興により、②⑤も前進していると思う。

ただし、④の「異質な文化に対する理解を進める教育」に関しては疑問である。

学習指導要領を調べると、特別活動において、「国際理解と国際協力」が取り上げられるのは、なんと高等学校のホームルーム活動からである。小学校や中学校の学級活動では取り上げられていない。

これはどういうことか。これでは、現在の世相を考えると喫緊の課題ともいえる教育に、十分に力を注ぐことができていないのではないか。

今日、私たちを取り巻く生活環境は、国民国家のレベルを超え、地球大にまで広がっている。これは、21世紀を生きる子どもたちにとって、避けることのできない現実である。

この「狭くなった」とも言える地球上における諸問題を自分たちの身近な所から捉え直し、より良い暮らしを営むために自他の関係性をより望ましいものへと作り変えていく力、異質な文化を理解し共生していく力が、これからの子どもたちには絶対的に必要である。

教師は、「授業」を通して、この多文化共生の力を子どもたちに育ませていく。
では、その授業は具体的にはどうあればいいのか。
ここに、私が追求してきた多文化共生の力を育む起点となる社会科授業の実践例を示す。

1. 鑑真

【願い】

鑑真の「ほんとうのスゴサ」を学ぶことにより、自分のあり方・生き方を考えてほしい。
「世界のどこかのお役に立つ人間になりたい」という憧れを抱いてくれば、嬉しく思う。

(起立、礼)

今日は、この人。誰？（鑑真像の写真）

そう、鑑真ですね。小学校でどんなこと習ってきた？

「中国のお坊さん。遣唐使船に乗って5回失敗して、6回目でやっと日本に来れた」

「途中で目が見えなくなった。それでも日本に来て、仏教を広めた」

おー、よく知っているね。いいねー。

では、ここで、どれだけ鑑真が苦勞して日本にやってきたのか確認するため、アニメを見てみましょう。

『まんが日本史 (2) 鑑真和上の来日』

- ・奈良時代、日本の仏教界は乱れていた。僧として守るべき規範も定まっておらず、税を逃れるために僧になりたがる者が続出した。
- ・そこで、舎人親王から依頼され、若い僧の栄叡（ようえい）と普照（ふしょう）が、授戒師を求めて中国に渡ることになる。
中国で授戒師にふさわしい徳の高い人を探し、交渉して、日本に連れてくるのが使命である。
- ・栄叡と普照は、遣唐使船に乗り苦勞して渡航し授戒師を探す、遠い異国である日本に行くことを認めてくれる僧はまったくいなかった。あっという間に9年の歳月が流れる。
- ・そんななか、唐広しといえども右に出る者はいないという高僧の鑑真和上に出会う機会に恵まれる。
「和上のお弟子のどなたかに日本にお出で頂きたい」と懇願する。
しかし、弟子たちはだれも首をたてに振らない。
「だれか日本に渡って仏法を伝える者はいないか。・・・仏法のためなら、どうして命を惜しむことがあろうか。誰もおらぬなら、よろしい、この私が行こう」
そう、鑑真が告げると、弟子たちは、「私も、私も参ります」と申し出た。
- ・第1回目は密告され失敗。743年、2回目は嵐にあい船は大破。3回目も失敗。4回目も弟子の密告により失敗。

その5年後、5回目は嵐にあい、南へ南へと流されてしまう。14日間の漂流の後、海南島に辿り着く。

そこに1年ほどとどまり、再び中国大陸へ。広州に辿り着いたとき、栄叡倒れる。「たのむぞ。和上を必ず日本へ」そう言い、栄叡は750年、異国の地で亡くなる。

- ・753年、普照は、今度こそ鑑真和上を遣唐使船で日本へ、と考えていたが、吉備真備（きびのまきび）から、「相談の結果、和上は船を降りてもらった」と言われる。普照は絶望して日本へ。

しかし、日本に着いてみると、鑑真和上が現れた。大伴古麻呂が秘かに遣唐使船に乗せてくれたということ。そして、目が見えなくなってしまったということ。

- ・754年4月、鑑真は平城京に着き、正式な授戒を行った。

どれだけ、鑑真が苦勞して日本に渡航してきたか、具体的に理解できましたね。

「仏教は本来、人の心を救うのが目的。仏教を一人でも多くの人に伝えたい」という情熱をもって、鑑真は、いくつもの困難を乗り越えて日本に渡ってきたのですね。

さて、では、みんなはこのこと知ってるかな？

鑑真は12年もかけて、やっと日本に来たのに、わずか2年で僧のリーダーである大僧都という役職を辞めさせられたこと。やっと日本に来たのに、わずか2年で政府から「もういらぬ。辞めて」って言われたこと。

これは、どうしてだと思ふ？

ヒント。「政府の願い」と「鑑真の願い」が違っていただけからなんです、どうして辞めさせられたんでしょうかね？1人で考えて。(3分)

はい、じゃあ、聞きます。……………。

……………うん、なかなか鋭いですよ。はい、政府はね、授戒が導入されれば、税逃れの出家を防ぐことができる。税金を逃れるためにお坊さんになる人がたくさんいたんだけど、それを防いで、税金を確実に取り上げたかったんだね。

一方、鑑真はお坊さんの数を減らすことが目的ではない。鑑真は、戒律をきちんと守った人以外は僧侶になれない制度をつくったけれど、僧侶の数を減らすのが目的ではない。正しい仏教を広めるために僧を一人でも増やしたいんだね。

ここが違ったんだ。それで、わずか2年で、鑑真は政府から「いらぬ」と言われたんだね。

で、ここからが問題なんだけど、12年もかけて、失明してまで日本に来て、正しい仏教を伝えようとしたのに、わずか2年で「いらぬ」と言われたら、君たちならどうする？

中国に帰る？それとも、日本にとどまる？

はい、分かれましょう。席を移動しましょう。

それぞれ、理由を聞かせてください。

別の考えの人たちに質問はありませんか？

・・・はい、では、鑑真はどうしたのか、中国に帰ったのか、日本にとどまって何か行ったのかビデオで確認してみましょう。NHKの「その時歴史が動いた」です。

- ・鑑真は、故郷の中国には戻らなかった。
日本にとどまり、隠居の地に寺をつくる決意をした。
71歳であるが、布教にかける情熱の炎は消えていなかった。
- ・国からの補助がない苦しい状況のなかで、様々な人からの支援を受け、唐招提寺を建てる。
日本で外国人によってつくられた最初の私立大学のようなものである。
金堂が建てられたのは鑑真（763年死亡）の死後、781年以降である。
鑑真が寺として建てたものは、講堂のみである。
その講堂で、身分の隔てなく、仏教を教え、僧を育てた。
- ・唐招提寺では、「仏の教えはただ国のためにあるのではない。人々を悟りへと導き、人々を救うためにあるはずだ」という信念に基づいた教育が行われた。
日本人をよくしていこうという情熱に満ちあふれていた。
唐招提寺で数百人の僧が学び、巣立っていった。
最澄の天台宗は、この鑑真の仏教にたいへん影響を受けている。

どうでしたか？鑑真は日本にとどまって、国からの補助がない苦しい状況のなかで、唐招提寺を建てました。そして、日本人をよくしていこうという情熱を持ち続けて、身分の隔てなく仏教を教え、僧を育てていったのですね。

今日は、いまから約1250年前に、

- ・5度も失敗し、12年もかけて命がけで日本に渡航した
- ・それなのに日本では、わずか2年で役を解かれるという思いもかけぬ待遇を受けた
- ・しかしそれに挫けず、日本人をよくしていこうという情熱を持ち続けて、この日本で亡くなったという中国の高僧鑑真を学びました。

鑑真の生きざまから、これからの世界を生きる君たちが何かを感じ、「平和」や「共生」に関する何かのヒントを学び取ってくれたら嬉しく思います。

では、奈良文化について重要なところをチェックしましょう。

教科書〇〇ページを開いてください。・・・・・・・・。

2. 福沢諭吉

【願い】

どうして福沢諭吉は江戸時代にあって、「天は人の上に人をつくらない」という真実に気づくことができたのかを学ぶなかで、以下の気持ちを抱いてほしい。

- ①「自分も自ら世界に羽ばたき、世界に学んで、真実に出会いたい」という気持ちを抱いてほしい。
- ② 諭吉は、賢いし、努力しているし、したたかである。たくましい。私も、この「賢さ」や「たくましさ」がほしい。
- ③ 福沢のようにしっかり学んで、人さまのお役に立てる仕事ができるようになりたい。

(起立、礼)

今日は、寒いですね。

少し動きましょうか。では、男女別に、誕生日の順に並んでください。

はい、2人組になりましょう。(男女のペアが無理な場合は、男子同士、女子同士で)

- ① 手あて(1回)
 ② 微笑み(今週、うれしかったこと。2分)
 ③ うなずき(私が憧れる歴史上の人物。1人3分)

少し聞かせてください。君が憧れる歴史上の人物。

「ぼくは、この前習った吉田松陰。伊藤博文などたくさんの優れた人を育てたから」

「大塩平八郎。“もはや堪忍なりがたし”とって乱を起こした正義心がいい」

「やっぱ、坂本龍馬。薩長同盟を成立させた知恵と行動力が素晴らしいから」

はい、今まで学習してきたことを踏まえて、自分の「あこがれ」を見いだしてくれていますね。たいへん嬉しく思います。

さて、それでは、この人誰か知ってる？(諭吉の絵を見せる)

・・・そう、福沢諭吉ですね。福沢諭吉について知ってること、すべて教えてください。

「1万円札に載ってる」(あー)

「『学問のすすめ』という本を書いた」

「慶応大学をつくった。たしか赤坂先生が落ちたと言ってた」(笑)

あぁ、いつか言ってたんでしょうね。よく覚えてたねー。

そう、先生、慶応大学2回も落ちたんです。ハッハッハッハッ。

ところで、『学問のすすめ』に書かれている有名な言葉、誰か知っていますか？

「天は人の上に人を造らず 人の下に人を造らずといへり」

おう、よく知ってたねー。

じゃあ、士農工商という身分制度がある江戸時代にあって、どうして福沢諭吉は、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずといえり」という真実に気づくことができたのでしょうか？

ノートに予想を書いてください。

1人で考える→4人グループで意見交換→全体場で発表。質疑・意見交換。

・・・「オランダ語も英語もできるから、きっと、西洋の書物を読んで、平等主義の考えを持つようになったから」というのがみんなの予想ということでもいいかな。

では、このビデオを見てみましょう。NHKの「その時歴史が動いた」です。

【咸臨丸でアメリカに入港するところから】

- ・咸臨丸、日本を発って 37 日目、アメリカ西海岸サンフランシスコへ入港。
- ・諭吉は万感の思いでアメリカを見つめる。
- ・アメリカ政府は日本人を砂糖精製工場などに案内して、無線技術やメッキ処理などを見せてくれる。
アメリカ側は日本人が驚くだろうと思って見せているのだが、諭吉らは日本にいる間に、「テレグラフとはこういうものか」など、そういうことばかり書物で詮索していたので、ちっとも驚かなかった。
- ・むしろ驚いたのは、何気ないアメリカ人の暮らしの中にあつた。
ある日、諭吉は提督の木村とアメリカ人の一般家庭を訪ねた。
アメリカでの夫婦のあり方が、当時の日本とまるで違うのを見て、諭吉は啞然とする。
おかみさんが座りこんで客の接待をし、亭主がお茶を入れている。
まるで、日本とあべこべ。どうもおかしい。
男尊女卑が当たり前であった江戸時代の侍の家に育つた諭吉には驚くべき光景だった。
- ・もう一つ。
初代大統領ワシントンの子孫はどうなっているかを聞いた時のこと。
ワシントンの一族が高い地位にいてると思って聞いたところ、「ワシントンの子孫には女の人
がいた。今はどうしているか知らないが、誰かの妻になっているらしいというそっけない
答えだった。
なんとも思っていない。これは不思議だ。
理学上のことは肝をつぶさなかったが、一方、社会上のことはまったく方角がつかめな
かった。
これは書物からは得られない、貴重な知識となる。
- ・52 日間の滞在を終え、帰国。
帰国後、『西洋事情』出版。慶應義塾設立。
明治 5 年『学問のすすめ』出版。第一行にはこう書かれている。
「天は人の上に人を造らず 人の下に人を造らずといへり」
この言葉は、諭吉が明治の日本人のために持ち帰った一番のみやげものでした。

士農工商という身分制度がある江戸時代にあつて、どうして福沢諭吉は、「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずといへり」という真実に気づくことができたのでしたか？

「アメリカに行ったから」

「アメリカの暮らしを自分の目で見たり、ワシントンの子孫のことを直接聞いて確かめたりしたから」

そうですね。・・・この事実を知って、あなたが感じ考えたことを自由に2人組で語り合ってください。(5分)

(数名を指名して聞く)

「オレは、外国に行くことなんかない。英語なんて勉強する必要ない、と思ってたけど、ちょっと考えがグラついた。やっぱり、いろんな国に行って、自分の目で見たり聞いたりすることは大事だと思った」

「日本にいただけじゃ、日本のことが見えない。

日本を出て、世界に出ることで、日本の長所も短所もわかるのではないかと思った。

私も福沢諭吉のように、英語を勉強して海外に行きたい」

・・・はい、ありがとうございます。

少し説明を補足します。

福沢諭吉は当時、政府の役人でもないし、名誉も地位もお金もなかったんです。

ですから、日本の代表として咸臨丸に乗れるような人物ではなかったんです。

そこで、諭吉は、頭を働かせて、「木村艦長は身分相応に従者を連れていくにちがいない」と考え、「福沢を通訳として連れて行くとよい」という紹介状を有力者に書いてもらうことにします。

有力者に頼み込んで紹介状を書いてもらい、通訳として乗り込もうとしたわけです。

こういう手順を踏んで、咸臨丸に乗り込むことに見事成功しているのです。

賢いし、努力しているし、したたかですね。たくましいですねー。

僕たちにも、この「賢さ」や「たくましさ」がほしいですねー。

そして、福沢のようにしっかり学んで、人さまのお役に立てる仕事ができるようになりたいですねー。

では、教科書のP〇〇を読んでいきましょう。

3. 新渡戸稲造

【願い】

日本中が戦争に突き進んでいた狂気の時代にあって、理性を失わず、71歳になっても、「周りをすべて敵にしても、私は一人でもやる！」と言って、平和を希求した新渡戸稲造の孤高の勇氣に感動し、憧れてほしい。

(起立、礼)

はい、今日はまず教科書を読みましょう。

・・・欄外に人物の写真が載っていますね。そこも読んでください。

「国際連盟の事務局次長に新渡戸稲造が就任し、日本は国際連盟の維持に重要な責任を負うことになりました」

新渡戸稲造という方が、国際連盟の事務局次長になり、活躍されたということですね。

新渡戸稲造について、この他何か知っていることありますか？

・・・はい、知らないんですよ。

日本人は新渡戸稲造について、ほんとに何にも知らないんです。

先生は、社会科教師として、これは大変イカンことであると思っています。

日本人は、偉大な先人である新渡戸稲造について知り、新渡戸稲造の生き様から現代を生きる知恵を学びとらなきゃイカンのだよなー。うん。

まっ、とにかく、新渡戸稲造はどんな考えをもち、どんなことをした人なのか、ビデオで見てください。

テレビ番組【知ってるつもり】

- ・1920年、国際連盟事務局次長になり、ジュネーブに着任。59歳。
- ・教育・科学・文化を通して世界平和を実現する国際知的委員会を創る。
アインシュタインやキュリー夫人ら世界的な学者・文化人が参加する。
(現在、ユネスコに引き継がれ活動を続けている)
- ・7年間の任期を終え、帰国。
帰国した日本では、中国大陸へ進出しようとする軍部が台頭していた。
「このままでは日本は孤立し、いずれは世界と戦うことになるだろう」と考え、新渡戸はひとり中国進出に反対の声をあげる。
- ・「新渡戸氏、奇怪な主張」「全く非国民。暴言も甚だしい」「新渡戸氏の自決を促す」などと新聞に書かれ、叩かれる。
- ・日本中から非国民扱いされたが、「このまま放っておくわけにはいかない。和平のためにアメリカへ行こう」と決心し、すべての官職を辞し、一人の民間人としてアメリカへ渡る船に乗る。
71歳、悲壮な旅立ちだった。
- ・1932年、日米間の戦争を防ぐため、アメリカ各地で講演。
「今、日本のしていることは国民の総意ではありません。どうか方向を修正する時間をください」と。
- ・アメリカ人からは罵声をあびる。
日本人からも「非国民」となじられる。
- ・稲造の努力はまったく理解されず孤独となるが、それでも講演を続け、ワシントンに入る。
そこで、フーバー大統領に会見を申し込む。
「両国の平和を築くための努力をあきらめないでほしい」と訴えるつもりであった。
- ・フーバー大統領は、会見を申し込んできた者が、あの『武士道』の著者であると知り、会見

に応じてくれることになる。

その会見の中で、フーバー大統領から、5月15日、犬養毅首相が暗殺されたことを聞く。5・15事件である。

「もう誰も軍部の行きすぎを止めることはできないのか」と嘆き、言葉を失う。

- ・それでも、「いや、なんとしてでも止めなければ」と稲造はアメリカ人の妻を残し（危険なので）、一人帰国する。

帰国した稲造に知らされたのは、稲造が手塩にかけて育ててきた国際連盟からの日本の脱退。これは日本の世界からの完全な孤立を意味していた。

- ・「もう和平への道はすべて途絶えてしまったのか？自分が今までやってきたことはいったい何だったのか？」

絶望の淵に断たされるが、稲造は最後の望みを持ち、カナダで開かれる太平洋問題調査会に出席することにする。

「私たちは、これから平和を究極の目的として相互に理解を深めなければならない」稲造、72歳。心の叫びであった。

- ・この演説から2ヶ月後、稲造死亡。

「外国人の老妻をただ一人残して逝く。よろしく頼む」

これが、バンクーバーで残した稲造の最後の言葉であった。

- ・稲造の死から8年後、日本は太平洋戦争に突入する。

- ・彼の教育とは、「知識」を与えるものではなく、「自由と平和を愛する心」を教えるものであった。

しかし、彼の願いと逆行するうねりの中で、稲造はどんな思いでこの世を去って行ったのであろうか。

「願はくは、われ太平洋の橋とならん。・・・橋は決して一人ではかけられない。何世代も受け継いでかけられるものである」

- ・新渡戸が着手した橋は、今、どれほど強固なものになっているのでしょうか？

はい、確認しましょう。

新渡戸稲造はどんな考えをもち、どんなことを行った人でしたか？

・・・では、新渡戸稲造の「考え」や「行ったこと」で、我々現代の日本人が引き継がなければならないことは何だと思えますか？

各自ノートにかいてください。3つ以上書けるといいですね。

4人グループで発表→全体の場で発表。質疑、意見交換。

(教師は、KJ法で出てきた意見を板書していく)

・・・たくさん意見が出てきましたが、先生は、このへん(板書された生徒の意見を指し示しながら)を特に学びたいと思っています。

- ・日本中が戦争に突き進んでいた狂気の時代にあって、理性を失わなかったこと。

・71歳という高齢であっても、周りをすべて敵にしてでも、「私は一人ででもやる！」と言って、平和を希求した生き様。

先生も、新渡戸稲造のような、「理性」「勇気」「行動力」「粘り」「孤独に耐える強さ」、そういうものを持ちたいと思いますね。

では、本日の「第一次世界大戦の終結」のポイントを解説しながら板書していきますので、みなさんしっかり聞いて、ノートをとって行ってください。

4. スペインの偉大なる「魂」と出会う ～ザビエル・ゴヤ・ガウディ・ピカソ・カザルス～

1. はじめに

治安の悪い海外では、日本国内のように、頻繁に校外での調査活動を行うことはできない。しかし、そのような制約のもとでも、価値ある授業を実践したい。

日本国内に劣らない実践を行い、海外に住む日本の子たちを、「世界に羽ばたく、心豊かなたくましい日本人」に育てていきたい。

海外にあるという特殊事情のもとでも、「子どもたち自らが学び、考え、課題解決する能力を身に付け、生きる力を育てていく」「現地理解を図るとともに、自己の生き方を考えることができるようにする」というねらいを達成できる学習ができるのではないかと考え、挑戦したものが、以下に示す報告である。

2. 授業の実際

(1) 年間計画のはじめに

人は、「ほんもの」と出会い、感動し、「ああ、私もこの人によりになりたい！」と心からのあこがれを持つことができると、自ら努力を始める。

自分で自分を前進させようとする。

学習を始めるにあたって、まずは、私自身が心を振るわされた(スペインの偉人)を、子どもたちに率直に語りかけた。

以下のような授業を実践し、ザビエル、ゴヤ、ガウディ、ピカソ、ミロ、カザルスなどに会わせたのである。

ミロ	『「明けの明星」を楽しもう！』
ガウディ	『ガウディの「魂」～カサ・バトリョから読み解く～』
パブロカザルス	『鳥の歌を聴きながら』
ドン・キホーテ	『愛される理由』
ゴヤⅠ	『ゴヤ独自の芸術世界～ベラスケスと比較して～』
ゴヤⅡ	『ゴヤが最後に拵んだもの～ボルドーのミルク売り娘～』
ザビエル	『「生きた、愛した」孤高の伝導』

これらの偉人との出会いの中で、子どもたちが、「ふーん、そんな人が、このスペインにいたのか。ちょっと興味がわいてきたな。もう少し、調べてみたいな」と思ってくれることを期待したのである。

全てを報告することはできない。二回に渡って行ったピカソの授業を報告する。

(2) 【ピカソ I】

〈本時の目標〉

ピカソの偉大さを理解し、ピカソの「生涯」と「作品」に興味を持ち始める。

ピカソ I ー眼光鋭きカメレオンー

さっ、この少年、だれでしょう？（絵1）勉強苦手。算数大嫌いの子です。

では、この青年はだれでしょう？（絵2）親友が自殺し、絶望のど真ん中にいます。

それでは、この人は？（絵3）顔の形がユニークですね。

・・・実はこれ、3枚ともピカソの自画像なんです。今日はピカソについて学びましょう。

さて、ピカソは何歳まで生きたと思う？

・・・91歳まで生きたんですが、死ぬ直前にも自画像を描いているんです。死の直前、どんな自画像を描いたと思う？予想して、描いてみましょう。

（予想図ができ、お互いの絵を見あった後）これなんです。（絵4）

ピカソの91歳の時の自画像と絵1～3を見て、ピカソはどんな画家だったと思いますか？

「91歳、死の直前まで・・・は変わっていった。変わらなかったのは、・・・」という発表をしてください。

うん、「目の形と赤い色が気になる」ってつぶやきましたね。鋭いね。そのへんから考えるといいですよ。

みなさんの考えを聴かせて下さい。・・・なるほど。これらの絵を見てください。

・「科学と慈愛」

15歳で生の輝きと死の暗黒を描ききる。天才の原点。ピカソ以前の完璧なるピカソ。

・「人生」

すべてをはぎ取られた者が持つ、人間の迫力が迫ってくる。青春さなかにいたピカソ自身の生きることに対する疑問と不安が伺える作品。

・「アヴィニヨンの娘たち」

だれも美しさを感じれなかったので猛反対。女性の魅力と危険性が見事に描かれている。これより、キュビズムが生まれる。

皆さんが予想した通り、ピカソは、創造と破壊を繰り返した画家。一瞬たりとも同じ所に立ち止

まらなかった。革新者であり続けた。色と形は、生涯変わり続けた。

変わらなかったのは、絵画への情熱と人間を描き続けたということ。

創作のエネルギーは、亡くなるまで衰えることはなかった。

この2点が、ピカソの特徴であり、偉大さであると思います。

(「眼光鋭きカメレオン」と板書する)

この次は、ピカソのある作品についてくわしく勉強しますね。お楽しみに。

(3) 【ピカソⅡ】

〈本時の目標〉

「ゲルニカ」について学ぶ中で、ピカソの「生涯」と「作品」に興味を持つ。

ピカソⅡ 一命をかけた叫び「ゲルニカ」

(いきなり)詩を読みます。「色が消えた、音が消えた・・・」。何に関する詩でしょうか？

ヒント1、ここに関係します。(スペインの地図を描き、ゲルニカの位置を指す)

ヒント2、この「壁に飾るおみやげ」に関係します。ピカソの作品です。

・・・そうです。「ゲルニカ」を見て作られた詩でした。

さて、詩には、「色が消えた、音が消えた、誰も消えた」等と書かれていましたが、いったいゲルニカという街で何が起こったのでしょうか？説明できる人？

・・・ビデオで見てください。

ナチスのコンドル軍団が都市を壊滅する空爆の実験としてゲルニカを爆撃。

ニュースを知ったピカソが、その怒りから描きあげた作品が「ゲルニカ」であることを説明する内容。

ゲルニカで何が起こったのかはわかりましたね。

では、「ゲルニカ」には、何人の人が描かれている？「切り裂かれた兵士など6人」

男何人、女何人？「赤ちゃんはどちらかわからないけど、女性の方が多い」

どうして女性の方が多く描かれているのでしょうか？「非戦闘員が殺されたという事実を強く示したかったからじゃないかな」

この6人の人たちが、何か言うとしたら、何を言うのでしょうか？死んでいると思われる人の分も資料の吹き出しに書いてみて下さい。

・・・考えを聴かせて。

「助けてー。赤ちゃんだけでも救って」

「どうして、この静かなゲルニカが狙われるんだ」。

では、もっともっと深く聞きます。考えて下さいね。馬と牛は、攻撃されているスペイン側を表しているのでしょうか？ナチスやフランコを表しているのでしょうか？

「馬はスペイン人の悲しみ、牛はナチスやフランコを表していると思う」

「いや、スペインは闘牛の国だから、牛がスペイン。馬がナチス」・・・。

はい、よく考え活発に発表してくれました。

全てを解釈することは難しいんですが、全体的には、非戦闘員をも標的とする無差別爆撃への怒りと悲慘さが表現されていますよね。

さて、ナチス占領下、ピカソのアトリエを検閲に訪れたドイツ軍の将校が、ゲルニカを見て、嫌悪の表情で「これを描いたのはあなたか？」と質問してきました。ナチスにとって、「ゲルニカ」は、とても都合の悪いものであったんですね。ですから、場合によってはピカソは殺される危険もあります。ピカソは、そこでなんと答えたと思います？

「冷静にそうですと答えた」「怒って怒鳴った」・・・。

実はね、(ピカソになりきり、低く強い声で言う)「描いたのは私だ。描かせたのは、あなた方だ」と答えるんです。

ピカソは逃げない。徹底して戦うんです。

「ゲルニカ」は、ピカソの命をかけた心の叫びだったのですね。

(授業後もゲルニカについての意見交換が続く)

3. おわりに

二時間のピカソの授業を終えた後、生徒からこのような感想をいただいた。

『眼光鋭きカメレオン・・・ピカソのスゴサ4つ』

- 1 小さいころから、とても絵がうまくて、子どもらしい絵が一枚もない。
この頃は、目に見える人間の姿ばかり描いていた。【絵の才能】
- 2 ところが、ところが、ここでピカソの人生が狂い出す。
親友の死や、親友の彼女との間に起こったことへの罪悪感等がピカソをキュビズムへと目を向けさせる。
この頃は、目に見える人間の姿ではなく、人間らしさである「複雑さ」を絵に表した。
【人間らしさを絵に表すスゴサ】
- 3 ゲルニカの上空襲。
命をかけて描いた絵。ピカソの感性のすべてをぶち込んだ絵。
【すべての人を感動させるうえ、歴史事実を生々しく表すスゴサ】
- 4 自分の死を目前にしたピカソ。最後の自画像。
燃えるような髪(絵を描く情熱)。
見る者を圧倒させる目(いろいろなものを見てきた目)。
青白い顔(もう若くない)。
【最後の最後まで絵を描くことの情熱が消えなかった天才画家ピカソ】

ピカソはすごすぎる。

この生徒は、この授業の後、コンピュータによる調査を中心に、ピカソをはじめ、ゴヤなど、スペインの偉人を自ら深く追求していきました。

そして、終業式の生徒代表の挨拶で、
「今学期の一番の思い出は、授業でピカソやカザルスなどを学んだことです。彼らは、芸術で世界を動かしました。私も、私の得意なことで、彼らのように世界を動かす人間になりたい。何か世界のために良いことができる人間になりたいと思います」と述べました。

それまでの、生徒の学期を振り返る挨拶といえば、修学旅行や運動会、文化祭などの学校行事に関するものばかりでしたので、普段の授業のことを述べたこの子の挨拶の時は、教員からどよめきが起こりました。